

福島工業株式会社

証券コード:6420

FINE!

株主・投資家の皆さまへ

第68期 期末報告書

2018年4月1日～2019年3月31日

Fukushima 

フレッシュ・バリューをあなたとともに

トップメッセージ

企業理念

環境・安全・安心をテーマに「幸せ創造企業」を目指します。

第1項 生活者の幸せ

わたしたちは、環境・安全・安心をテーマに、お客様と協働し、生活者の「幸せ」に寄与することを基本使命とします。

第2項 お客様の幸せ

わたしたちは、独自の技術とシステムにより、フードビジネスに新しい価値を創造し、お客様の「幸せ」に貢献することを基本使命とします。

第3項 社員の幸せ

わたしたちは、自己責任能力を高め、自身と社業の成長を通じて、物心両面の「幸せ」を追求することを基本使命とします。

第4項 株主・お取引先の幸せ

わたしたちは、将来への目標を共有し、常に業績向上に努め株主やお取引先に「幸せ」を提供することを基本使命とします。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社第68期(2019年3月期)の事業活動の概況を、ご報告申し上げます。

株主の皆様には、引き続きご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長

福島 裕

―第68期の業績について―

当期におけるわが国経済は、企業の設備投資の増加や雇用・所得環境の改善を背景に緩やかな回復基調が持続しました。一方で、米中貿易摩擦の懸念や中国経済の一部に弱い動きが見られるなど、先行き不透明な状況が続いております。

当企業集団を取り巻く環境は、外食産業では、価格改定による客単価の上昇や期間限定商品の導入により、ファーストフードやレストラン業態での売上は引き続き堅調ですが、人件費や食材費の上昇などにより厳しい状況が続いております。また、流通産業では、消費者の節約志向が続く中、深刻な人手不足や原材料価格上昇等による影響で引き続き厳しい経営環境で推移しております。

こうした環境の中、冷凍冷蔵庫販売では、ラインナップを拡充した新型製氷機や、一定時間で品質劣化を抑え衛生的に解凍できる解凍庫、メディカル市場向けの製品の販売が堅調であり、冷凍冷蔵ショーケース販売では、引き続き出店意欲が旺盛なドラッグストア向けの販売が好調に推移しました。

また、大型パネル冷蔵設備販売では、人手不足や人件費上昇を背景に、食品工場や低温物流センター、

スーパーのプロセスセンターといった大型案件が伸長した事、サービス販売では、夏季の猛暑によるメンテナンス需要が伸長ならびにコンビニエンスストアなどの保守契約などによる売上が増加いたしました。

しかしながら、コンビニエンスストアや外食産業向けの汎用冷凍冷蔵庫の販売が減少したことや、食品スーパーの新規出店や改装への投資が抑えられたこと、下期の需要ピークの起伏の関係で引き渡し件数が一時的に落ち込んだためトンネルフリーザーの販売が減少したことなど、マイナスの要因もありました。

以上の事から、当連結会計年度の売上高は前年同期比0.4%の増収、営業利益は8.7%の増益、経常利益は7.9%の増益、親会社株主に帰属する当期純利益は前年比16.4%の増益となりました。

―第69期に向けて―

2019年度も、企業収益や雇用・所得環境の改善等から緩やかな景気回復が持続するとみられるものの、消費税増税による個人消費への影響や人手不足などが懸念されております。海外では、各国の通商

政策や国際情勢などの先行き不透明感が増しております。

このような環境の中、外食・流通市場におきましては、業態を超えた競争や深刻な人手不足から厳しい経営環境が続くと予想されますが、省エネ・省力化や環境規制対応のニーズに迅速に対応し、より一層の関係強化に努めてまいります。お客様の課題解決に向け、冷凍冷蔵庫販売、冷凍冷蔵ショーケース販売から、物流倉庫や食品工場などの冷蔵倉庫やトンネルフリーザーなどの大型案件、そして保守メンテナンスなど、当企業グループ一体となった総合提案を積極的に行うことで、売上の拡大を図ってまいります。

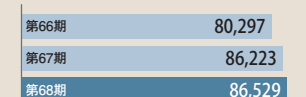
また、当企業集団は、2019年12月3日をもって「ガリレイ」を新ブランドとするガリレイグループに変わります。グループでのブランドを統一し、グループ全体が一丸となってこれからも食に関わる様々な場面で「美味しさ」と「食の幸せ」に益々貢献できるよう努めてまいる所存です。

株主の皆様には今後ともなお一層のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

第68期連結決算 (単位:百万円)

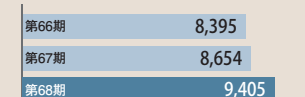
売上高

86,529 前年同期比 0.4% 増



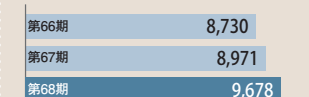
営業利益

9,405 前年同期比 8.7% 増



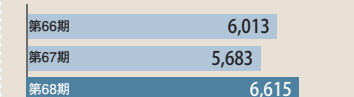
経常利益

9,678 前年同期比 7.9% 増



親会社株主に帰属する当期純利益

6,615 前年同期比 16.4% 増



事業活動の浸透と総合力の強化のため、2019年12月3日に
グループブランドを『ガリレイ』に統一し、
社名を『フクシマガリレイ株式会社』に変更いたします。

GALILEI

Be cool, Be alive.

今回、創業70周年を前に立ち上げたグループブランド構築プロジェクトを通じて、2019年12月3日よりグループブランドの統一と社名変更を実施することになりました。現在の幅広い範囲にわたる事業内容が、生活者をはじめ、お客様や株主様など、より多くの人にわかりやすく伝わること。グループ全体が一丸となり、さらなる事業領域の拡大と技術力の向上を果たすことを意図しています。新しい統一ブランドと社名の基となった、ガリレオ・ガリレイのように、固定観念にとらわれず発想し、グループが結束し信念をもって最後までやり抜く。そして、世界中への食の幸せを届け、人々の人生を豊かにするという企業使命を実現するために、さらなる進化を遂げていきます。

【ロゴの意味】

天文学の父といわれるガリレオ・ガリレイのように、固定観念にとらわれず信念を持って最後までやり抜き、世界中の人々へ食の幸せを届け、人生を豊かにするという当グループの姿勢を表現しています。

PROJECT INTERVIEW

「食」だけに留まらない、
「生きる」につながる幅広い事業展開を。

グループブランド構築プロジェクトを立ち上げた当初は、ブランドメッセージの刷新を考えていたので、社名を変更する想定ではありませんでした。しかし、プロジェクトを通じて改めて今の自分たちの姿や今後のあるべき姿を見つめ直していく中で、自然発生的に社名変更の意見

が出てきました。グループブランドを再定義する中で、当社はこれまでに培ってきたメーカーとしての強みを活かしながら社会に役立つ企業として、「食」からメディカル・健康・環境といった分野に事業を拡大してきましたが、これからは食にこだわらず、さまざまな変化に対応し、



専務取締役 営業本部長 福島 豪

イノベーションをする会社へと進化していくという思いを込めて、ブランドメッセージを「Be cool, Be alive.」としました。なお、「Be cool」には「冷やす」だけでなく「スマート」「スタイリッシュ」な意味が、「Be alive」には「活かす」「命を扱う」「活気がある」という意味が込められています。また、ブランドメッセージを発信していく上で、当グループの事業内容を、生活者やお客様、お取引先の皆様に、よりわかりやすく一体感を表すため、事業ブランドを構築し、グループとして統一することとなりました。

事業ブランドを考えるにあたり、まず取り組んだのが自分たちの強みは何なのかということをお客様や協力会社様、ユーザーの皆様からヒアリングすることでした。その結果、冷凍冷蔵技術、アフターメンテナンスの自社対応、サービスネットワーク、多品種混合生産など、さまざまな強みがあるとの意見がありましたが、特に共通した意見が「強みは、社員の人間性」ということでした。お客様の問題を自分のことのように捉え、それを解決するため真摯に仕事に向き合い、お客様のビジネス



にしっかりと寄り添う社員がいっぱいいる会社。まさに、社員一人ひとりが私たちの強みだと考えています。変化の激しい今の時代だからこそ、トップダウンよりもボトムアップからの変革が求められています。現場に立つ社員がさらなる挑戦と成長をしていかなければ、会社全体、グループ全体の発展も望めません。

そのような考えから、新しい名称は人の名前になんだものになりました。ガリレオ・ガリレイは、皆さんご存知の通り、当時当たり前とされていた天動説を疑い、自分の信じる地動説を唱え続け、世の中に大きな変革をもたらしました。彼の固定観念にとらわれることなく、信念を持って最後までやり抜く姿勢こそが、これからの当社の目指す

べき姿です。現場の社員それぞれがより広い視野を持ち、イノベーションを起こしていく。そうすることで、企業全体も大きな変革を迎えることができます。それは「食」という領域だけに限りません。広い視点で捉えれば、食は人にとって必要不可欠であり、「生きる」という点につながります。「メディカル」「健康」「環境」といった領域においても、もっと私たちだからこそできることがあるはずです。これまで培ってきた技術やノウハウを活かすことで、社会のさまざまなニーズに応えることができます。社員がよりチャレンジングに、イノベティブに活動していけるように、今後、風土や環境づくりもますます進めていかなければならないでしょう。

創業68年目を迎え、新たにガリレイとして歩み出していく私たち。これからも「食」を支えるというコアの部分は変わることなく、さらに個々の事業を伸ばすとともに、現状にとらわれず、これまでにない新たな動きを起こしていきたいと考えています。今後のフクシマガリレイ並びにガリレイグループのさらなる飛躍にぜひ、ご期待ください。

BRANDING MISSOION

多岐に渡る事業をクロスさせ、新たな未来を創り出していく。



営業戦略部 部長代行 黒木 健一

新たなスタートを切るにあたりシンボリックな出来事も控えています。それが、同時に迎える新本社ビルの完成です。ここでは、まさに社員がよりイノベティブに活動できるように、これまで離れていた部署やグループ会社を一堂に集めることにしています。そこでキーとなるのが「事業クロス」という考え方です。各事業がそれぞれの垣根を越え、クロスさせ、新しい価値を創造していく。個々の専門性を伸ばすことは当然ながら、クロスすることでイノベーションを起こしていきます。また、当グループの粋を集め、他業種や

大学、研究機関などと一緒に「食」の未来を創造していくための「第三の工場」としての施設を設けます。この新社屋で、グループ全体が一体感を持って、事業クロスをよりスピーディかつ積極的に進めていきたいと考えています。これからは、「ガリレイ」マークの製品をどんどん市場に送り出していくことで積極的にブランド発信をしていきます。また、インナーに向けては新ブランドの浸透を図るとともに、社員一人ひとりがブランドを体現しグループ全体のさらなる発展を目指していきます。

特集

タイ・バンコクで最高水準のサービスを提供。

日本流の質の高いライフスタイルを提案する 「サイアム高島屋」様の施工をサポート。

サイアム高島屋様は、タイ・バンコクのチャオプラヤー川西岸に位置する大型複合施設「ICONSIAM」のアンカーテナントとしてオープン。7フロアで構成された売場には、レストラン、食料品、婦人服、紳士服、雑貨など多彩なショップが並びます。フクシマでは、日本の良いものを取り揃える高島屋様をはじめ、様々なテナント様の施工をサポート。今回は、サイアム高島屋様の導入事例をご紹介します。



フクシマの海外ネットワークを活かし、
多数の店舗づくりをサポート。



レストランや食料品店に、
合計150台の製品を納品。

2018年11月10日、「タイの最高と高島屋のフュージョン」をコンセプトに、日本の良いものを取り揃えるサイアム高島屋様が、タイ・バンコクにオープン。本案件は、高島屋様及びテナント様計27店舗に、縦型及び横型の業務用冷凍冷蔵庫、製氷機、リーチインショーケース、アイランドショーケース、平形ショーケース、リターダーなど合計で150台の製品を納品させていただきました。また、タイでは初めてとなる、生鮮食品の一時保冷に役立つコールドロッカーも採用していただきました。

お客様に寄り添った提案で
満足度の向上を目指す。

タイに初めて出店されるお客様が多く、打ち合わせを日本や海外で希望されるお客様もいらっしゃる中、フクシマのグループネットワークにてご要望にお応えしました。海外初出店のお客様からは、「不安も多くあったが、フクシマさんはタイでも無理なお願いにもすぐに対応してくれて本当に助かった」と、好意的なお言葉も多くいただきました。今回は、厨房だけでなく店舗全体をお客様と一緒に作り上げるという、フクシマならではの強みを活かすことのできる施工内容でした。今後も、ただ製品を納品するだけの業者ではなく、お客様のパートナーという立ち位置で関係性を構築し、支援を図ってまいります。サイアム高島屋様での経験は、セントラルワールド、エカマエモールに並ぶ上質への追及が成されたプロジェクトとしてアピールし、新規顧客の獲得につなげてまいります。



トピックス~NEWS~

新サービス

業務用冷凍冷蔵庫などの温度を自動で管理する

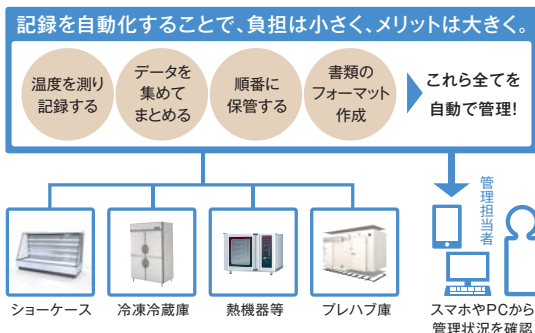
ハサップ エクスアラウンド

『HACCP ExAround』の運用をスタート。

HACCP EX Around

食品衛生法の改正により2020年から全ての食品業者に対して、HACCPの導入が制度化*されます。
HACCPで重要となるのは「記録」を取ることですが、一般衛生管理に加え、冷凍冷蔵庫の温度を記録することは時間も人手もかかります。
フクシマの「HACCP ExAround」は、店舗の冷凍冷蔵ショーケースやバックヤードの冷凍冷蔵庫の温度を自動で管理。クラウドだから新たにパソコンを設置することなく、24時間正確に記録できます。設備の異常など、警報発生時にはメールでお知らせします。

※1年間の猶予期間があります。



新製品

超高齢社会への
新たな貢献を目指す。
とろみサーバーが新登場!

ダマやムラのないとろみ煎茶やとろみ水が、ワンタッチで抽出できる製品です。これまで職員が手で行っていた作業が軽減され、とろみ調整の時間も短縮。嚥下機能が低下した方のいらっしゃる高齢者施設や病院などにおすすめです。



新製品

冷凍・冷蔵の切り替えができる。
ワイドレンジ
業務用冷凍冷蔵庫が登場!

スイッチひとつで冷凍・冷蔵の切り替えができる製品です。切り替えパターンは、オール冷凍、オール冷蔵、右室冷凍&左室冷蔵、右室冷蔵&左室冷凍の4パターン。季節やメニューに合わせて使用でき、ホテルやレストランなどにおすすめです。



展示会

第53回
スーパーマーケットトレードショー
2019に出展しました。

2019年2月13日(水)~15日(金) 幕張メッセ

スーパーマーケットを中心とする食品流通業界に最新情報を発信する商談展示会です。今年は、新デザインショーケースCLAIR Send-youやバックヤードの厨房提案、厨房の見えるベカリー陳列提案、ウォークイン冷凍庫、クラフトビールをペットボトルにつめて販売できるビールサーバー仕様冷凍庫など、多彩なラインナップで展示いたしました。



展示会

業務用厨房機器が一堂に会する
厨房設備機器展2019に出展

2019年2月19日(火)~22日(金) 東京ビッグサイト

フクシマのブースでは、HACCP管理に役立つシステム・製品の紹介や要望に応じてオーダーメイドできるプレハブ冷凍冷蔵庫の提案、ワインセラーやビュッフェコーナー向け製品の展示などを行いました。また、給食・厨房セミナーにも多くの方にご参加いただきました。



スイング扉リーチインショーケースが
2018年度省エネ大賞を受賞!

優れた省エネ活動事例や先進型省エネ製品を表彰する省エネ大賞で、フクシマのスイング扉リーチインショーケースが製品・ビジネスモデル部門において、省エネルギーセンター会長賞を受賞しました。今後もさらなる省エネ製品の開発を目指します。



社名変更 ブランドリニューアルの紹介

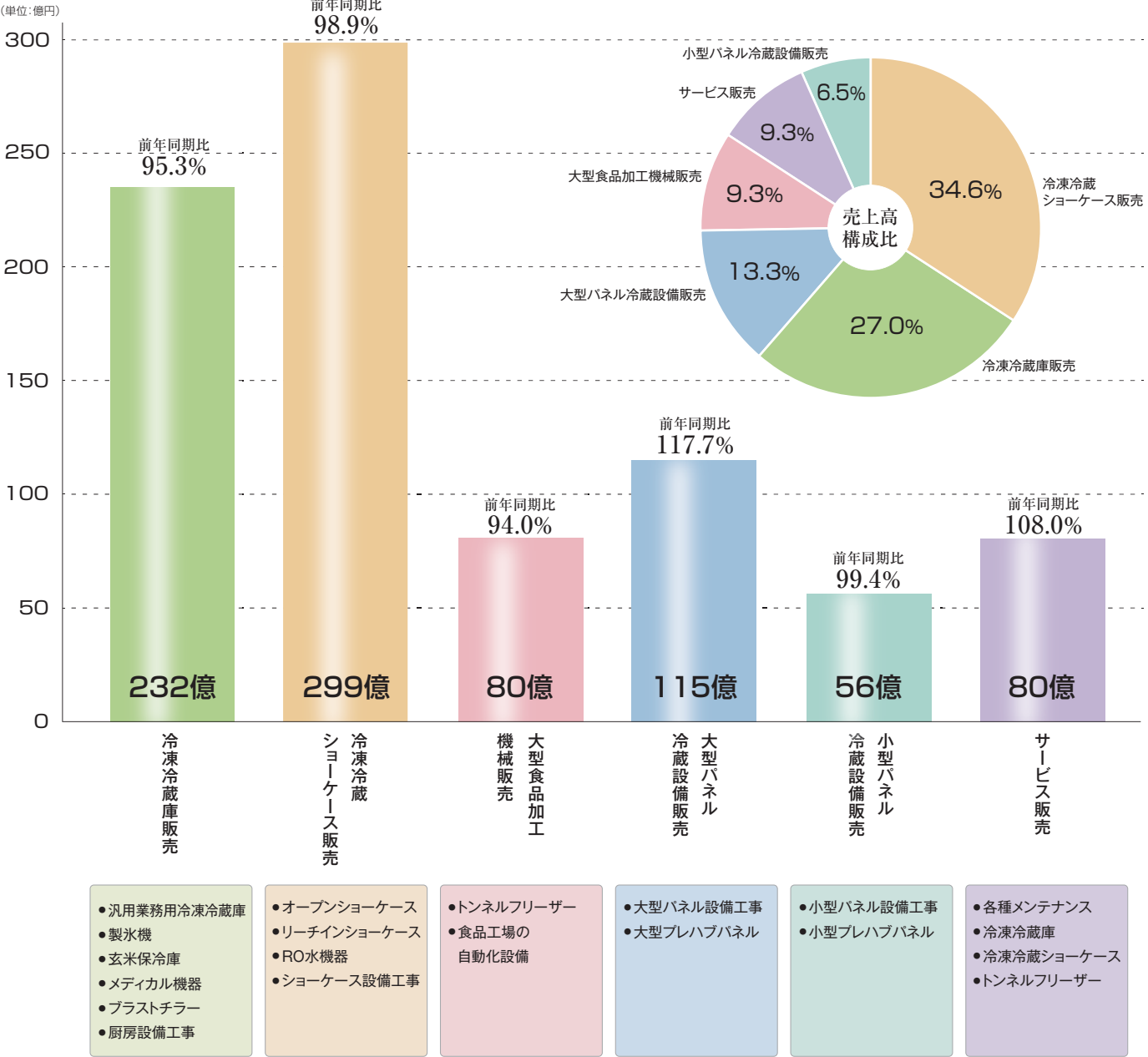
2019年12月3日より商号を「フクシマガリレイ」に変更予定です。世界中へ食の幸せを届け、人々の人生を豊かにするという当企業グループの姿勢を表現した動画も公開しています。

こちらからご覧ください▶





事業別売上高



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日現在)	当連結会計年度 (2019年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	59,972,918	60,422,276
固定資産	23,704,367	26,200,654
有形固定資産	11,965,765	14,899,236
無形固定資産	273,105	421,664
投資その他の資産	11,465,496	10,879,752
資産合計	83,677,286	86,622,930
負債の部		
流動負債	32,701,738	31,088,484
固定負債	2,074,439	1,646,899
負債合計	34,776,178	32,735,384
純資産の部		
株主資本	43,957,968	49,771,440
資本金	2,760,192	2,760,192
資本剰余金	3,168,379	3,168,379
利益剰余金	41,242,790	47,057,197
自己株式	△ 3,213,394	△ 3,214,328
その他の包括利益累計額	4,910,509	4,059,581
その他有価証券評価差額金	4,870,266	4,058,247
為替換算調整勘定	65,057	65,665
退職給付に係る調整累計額	△ 24,814	△ 64,331
非支配株主持分	32,630	56,524
純資産合計	48,901,107	53,887,546
負債純資産合計	83,677,286	86,622,930

Point.1

Point.1

現金及び預金が増加したことによる流動資産の4億4千9百万円増加と、有形固定資産に含まれる建設仮勘定が増加したことによる固定資産の24億9千6百万円増加により、資産合計29億4千5百万円の増加となりました。

連結損益計算書

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2017年4月1日から 2018年3月31日まで)	当連結会計年度 (2018年4月1日から 2019年3月31日まで)
売上高	86,223,671	86,529,685
売上原価	64,630,055	63,765,757
売上総利益	21,593,615	22,763,928
販売費及び一般管理費	12,939,149	13,358,729
営業利益	8,654,466	9,405,198
営業外収益	504,461	462,564
営業外費用	186,984	189,438
経常利益	8,971,943	9,678,324
特別利益	26,250	39,839
特別損失	443,148	—
税金等調整前当期純利益	8,555,044	9,718,164
法人税等合計	2,872,879	3,091,076
当期純利益	5,682,165	6,627,087
非支配株主に帰属する 当期純利益又は当期純損失	△ 1,093	11,210
親会社株主に帰属する当期純利益	5,683,259	6,615,876

Point.2

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2017年4月1日から 2018年3月31日まで)	当連結会計年度 (2018年4月1日から 2019年3月31日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	8,320,943	6,564,933
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 668,760	△ 3,229,010
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 1,006,334	△ 1,298,899
現金及び 現金同等物に係る換算差額	△ 75,176	150,880
現金及び 現金同等物の増減額	6,570,671	2,187,904
現金及び 現金同等物の期首残高	24,910,742	31,481,413
現金及び 現金同等物の期末残高	31,481,413	33,669,317

Point.3

記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

Point.2

食品工場や低温物流センター、スーパーのプロセスセンターへの販売が堅調に推移したこと及び猛暑によるメンテナンス需要が伸びたことやコンビニなどの保守契約による売上が伸長したことなどにより、昨年同時期に比べ3億6百万円の増加となりました。

Point.3

税金等調整前当期純利益を97億1千8百万円計上し、主に投資活動及び財務活動に資金を使用した結果、前連結会計年度末に比べ21億8千7百万円増加し、336億6千9百万円となりました。

Information

会社概要

商 号	福島工業株式会社
本 社	〒555-0012 大阪府大阪市西淀川区御幣島3-16-11
設 立	昭和26年12月8日
資 本 金	27億6千万円
従業員数	連結:2,033名 単体:1,500名(準社員除く) 2019年3月現在

ネットワーク

支 社	東日本(東京浅草橋)、中部(名古屋)、西日本(福岡)
支 店	北海道(札幌)、東北(仙台)、北関東(宇都宮)、さいたま、千葉、東京(日本橋)、横浜、信越(長野)、静岡、北陸(富山)、関西(大阪)、京都、南大阪、神戸、岡山、広島、四国(高松)、東九州(大分)、西南九州(長崎)、沖縄
営 業 所	旭川、函館、帯広、青森、盛岡、秋田、郡山、山形、高崎、水戸、つくば、船橋、西東京、甲府、新潟、松本、沼津、浜松、豊橋、三重、岐阜、金沢、福井、滋賀、福知山、奈良、和歌山、西宮、姫路、鳥取、松江、福山、山口、徳島、松山、高知、北九州、久留米、佐賀、宮崎、延岡、都城、中津、佐世保、熊本、鹿児島、石垣、宮古島
サービスセンター	関東(西船橋)、関西(大阪)
サービスステーション	釧路、水沢、北東京、南東京、厚木
工 場	滋賀(水口)、岡山
グループ会社	国内:高橋工業株式会社、フクシマトレーディング株式会社、FSP株式会社、株式会社省研 海外:香港、台湾、シンガポール、上海、マレーシア、北京、タイ、ベトナム、インドネシア、フィリピン、カンボジア、ミャンマー 海外工場:北京合弁工場、タイ工場

役員

代表取締役社長	福島 裕	取 締 役	藤川 隆夫
取締役副社長	福島 亮	取 締 役	吉年 慶一
専務取締役	福島 豪	取 締 役	田中 浩子
常務取締役	片山 充	監 査 役	竹内 博史
常務取締役	長尾 健二	監 査 役	濱 政夫
取 締 役	水谷 浩三	監 査 役	西井 弘明
取 締 役	日野 達雄		

株式のご案内

決 算 日	3月31日
定時株主総会	毎年6月下旬に開催
配 当 金 受 領 株 主 確 定 日	3月31日 なお、中間配当を実施する場合の確定日は9月30日
上 場 取 引 所	東京証券取引所 市場第一部
公 告 掲 載 方 法	当社の公告はホームページ https://www.fukusima.co.jp/ir/advertise.html に掲載いたします。
株主名簿管理人および 特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株 主 名 簿 管 理 事 務 取 扱 場 所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電 話 照 会 先)	0120-782-031

お知らせ

この度、例年同封しておりました環境報告書を廃止させていただく事となりました。
なお、2019年12月公開予定の統合報告書内において環境項目を記載させていただきます。

最新情報、サポート情報、デジタルカタログ等、様々なコンテンツが充実。

福島工業のホームページを、ぜひご覧ください！

<https://www.fukusima.co.jp/>

